

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 1月31日

事業所名 ぽこ あ ぽこ

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			身体が大きくなって、手狭に感じることもありますが広い廊下なども有効に利用するようにしています。	
	2	職員の配置数は適切である	7				
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7				
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	1		基本は常勤職員で行い、他の職員にも共通理解してもらっている。	今後は、非常勤職員にも意見を求め、全員が参画できるよう努めます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7				改善できることは実施していきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1		保護者への配布、掲示、市役所にも提出しています。Facebookにも公開し、WAMNETからも閲覧できるようにしました。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	3		第三者になって頂けそうな方が見つかりました。今後、どのような形で評価していただくか検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			月に1回は事業所内で研修を行っています。	今後は、非常勤職員も外部の研修に参加する機会を作れたらと考えています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別の支援計画を作成している	6	1			相談支援専門員とも連携し、より良い支援計画の作成に努めます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3			アセスメントはしっかり行っていますが、非常勤職員にも参画の機会を増やし、情報の共有に努めています。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3			常勤職員で行うことが多いので、今後は全体の意見を取り入れていきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			固定化した方が安定して取り組める方もいるので、個々に合わせて工夫しています。	個々の状態に合わせた活動プログラムにしていきます。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1			きめ細やかには言えないですが、休日や長期休暇には日頃できない活動や行事を設定し、課題や制作にも取り組んでいます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別の支援計画を作成している	7			集団活動が苦手な方も多いので、様子を見て誘ったりしています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1		支援開始前に打ち合わせをしています。	打ち合わせはしていますが、全員が揃わないことがあるので、その都度適宜確認するようにしています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	4			送迎など各自の業務があるため、揃っての振り返りはできていない。翌日の支援前までには共通理解していきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				日々の記録はとっていますが、まだ改善する必要があると思います。
	18	定期的にモニタリングを行い、個別の支援計画の見直しの必要性を判断している	7				6ヶ月に一度モニタリングを行い、計画、目標を見直し、新たな目標を設定しています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせることで支援を行っている	6	1			非常勤職員にも理解を深めてもらいます。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7				児童発達支援管理責任者が出席しています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7				保護者や学校と連携し、情報共有に努めています。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		1	6		受け入れていません。今後、受け入れる予定もありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	2		日中一時支援からデイサービスへ移行される方が多く、その時から情報共有しています。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	4	1		求められれば情報提供する準備はあります。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	5		まだ連携できていません。今年こそはセンターの研修に参加するなどして連携の機会を作りたいと思います。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			7		当事業所の特性から(重度のお子さんが多い)交流は難しいと思いますし、保護者の方からの要望もないようです。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	3			自立支援協議会の子ども部会に児童発達支援管理責任者が参加しています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			連絡ノート、SNSなどを使い伝え合っています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	2			ペアレント・トレーニングは行っていないですが、相談に応じて助言や提案をさせて頂いています。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			ノートや送迎時だけでは解決しない時は、事業所にて直接お話しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			来所頂いたり、電話やLINEを利用して対応しています。	ご相談、悩みごと、愚痴でも何でも聞きますよ。いつでもご連絡下さい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		1	6		コロナが5類になったら茶話会を開催しようと考えています。父母の会等の開催については今のところ考えておりません。皆さんからの要望に応じて考えたいと思います。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			受付担当者、責任者を決めています。何かあればすぐに職員に周知し原因の解明につとめています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	1			会報は定期的に発行することができていませんが、Facebookに活動の様子や制作した壁面飾りなどを載せるだけでなく、LINE等で活動の様子を直接お知らせしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	7				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	1			障がい特性に応じて、絵カードや簡単なサインなどを使うなどして意思の疎通に努めています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		1	6		交流はありませんが、災害時個別救援組織の中に入れて頂いています。災害時は、民生委員、児童委員の方に支援して頂けることになっています。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	1		各種マニュアルを作成し、誰でも見られる場所に置いてあります。職員も周知していますが保護者の方たちは内容までご存じありません。何かの機会にお伝えする方法を考えていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			事業所内での訓練やお話し。第一集会所まで、年に一度は歩くようにしています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			年に一度以上の研修を義務付け、職員全員が毎月チェックリストを実施しています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			必要性のある利用者の保護者と、別途身体拘束に関する書類を交わしています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	2	1	学校に提出する指示書のコピーをもらっています。検査の結果もその都度報告頂いています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1		支援開始前の打ち合わせの際に、ヒヤリハットの気付きを共有するようにしています。全職員が意識を持って取り組めるよう、体制作りに努めています。